

地域公共交通網形成計画（案）に対するパブリックコメントについて

No	意見箇所	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	
A	1	6頁、3-1	交通空白地域の図について、全体を確認できるように配慮をお願いしたい。	市のHPで確認できるよう対応いたします。
	2	20頁、2-8	阿坂小野線について、「移動実態ニーズは伊勢中川駅方面が主となっております」と分析しているのに、なぜ改善しないのか。	本計画期間中に地域で考える場を設け、公共ネットワークを再構築します。（P20をご覧ください。）
	3	21頁、3-1	JR徳和駅を乗換ポイントと位置付けるようだが、学生の自転車等も多く、バスの乗り入れに支障があるのではないのか。	コミュニティバスに使用する車両は、ワゴン車タイプの大きさまで、大きな支障とは考えていません。
	4	21頁、3-2	JR名松線について、松阪市から見れば『松阪市から白山・美杉地区へ行く』か『駅付近の住民が松阪駅付近』へ行くしか考えにくい利用形態なのに、市としての利活用のイメージをもっているのか。	地域公共交通の一部として、ご指摘の通りの利用形態を想定しています。利用可能性の模索も含めて、利用の機会をいかに創出するかは、計画に記載しています。（P21をご覧ください。）
		その他	名松線は津市域が主体の路線であるが、平成の大合併時に一志郡を津市と松阪市で分けた地域であり、それぞれにつながりを持っていることから、流動がうまく合わせられず扱いが難しい路線と思う。もし利活用に取り組むなら、一過性の観光利用よりも、津市とも連携して、まず地元の利用者動向をきちんと把握し、一志駅や権現前駅でコミュニティバスと接続させるような取り組みが必要になるのではないだろうか。	
	5	22頁、4-1	三雲地域振興局バス停を交通結節点として整備するのはいいが、本来、結節点として整備するのであれば近鉄伊勢中川駅ではないか。仮に津三雲線を武四郎記念館付近を通り伊勢中川駅まで、また、三雲松阪線も伊勢中川駅まで入れば、今よりも交通の結節点としての役割を大きく考えることができるようになると思う。	津三雲線の延伸は、ダイヤ設定や乗務員拘束時間の調整が難しく、実現は困難です。また、三雲松阪線の延伸は、たけちゃんハートバスとの兼ね合いもあり、地域での議論が必要です。現状では、津三雲線・三雲松阪線・たけちゃんハートバスの連絡という点から、三雲地域振興局を結節点とすることは妥当であると認識しています。
	6	36頁、1-2	21ページで名松線の利活用について触れているのであれば、存廃の問題が出たこともある名松線についても利用者数の目標を設定したほうが良いのではないのか。	当該路線は、津市側の影響が大きく、本市の計画で設定するのは適当ではないと考えます。
7	その他	「おおきんバス」「たけちゃんハートバス」はいずれも運休日があり、「おおきんバス」はさらに曜日別ルートとなっているが、この点については利用者からはどのように評価されているのか。見直しが必要ないなら、その点をどこかに明記しておくとい。	どちらの路線も地域主体交通であり、見直しの必要性については、地域の運行協議会という話し合いの場を設けています。なお、土日祝日の運行については、地域のニーズに応じて地域との話し合いで検討していきたいと考えています。	
B	8	14頁、1-4（15頁）	“これまでも行ってきた地域との議論”とは何を指すのでしょうか。地域としては、平成28年2月のアンケート実施前からその方法、内容等について行政と地域がともに協議を重ね今日に至るまで3年が経過しています。この先まだ何を議論するのでしょうか。必要な議論があれば早急に指導していただきたいと考えます。	平成31年度、運行形態や具体的なルート、ダイヤ等について、これまで行ってきた議論をベースに具体的な検討に入ります。
	9	15頁、2-1	新路線が記載され、松阪駅からアドバンスモールまでとなっているが、市民の憩いの場として整備されている宝塚古墳公園を經由して中部台運動公園まで延伸できないのでしょうか。公共施設の利用促進にも繋がると考えられます。また、アドバンスモールで買い物する方であっても30分程度の時間の余裕ができるのではないかと思います。	当該路線は1台の車両で運行するとともに、同じ車両で大口線も運行いたします。そのため、中部台運動公園まで延伸すると運行間隔が広がってしまい、利便性が低くなってしまいますので、現状のルートで運行いたします。
	10	34頁、10-3	「地域主体交通の運行協議会を対象に年1回公共交通勉強会を開催」について、自治会等の地域で活躍されている役員さんは長年に亘る方は少数となり、中には1年交代のところもあり、事業を継続するためにも年1回の勉強会の開催をお願いします。	地域における「勉強会」は、地域の方々に地域公共交通の実態を認識していただける絶好の場でもありますので、ぜひとも開催に対するご協力をよろしくお願いいたします。